

タイトル：城西大学での一学期を振り返って

経営学部 ユ・ジェチョン（柳 在天）

皆さん、こんにちは。私は韓国の東西大学校（DSU）グローバル観光学部日本語学科から交換留学生として来日し、城西大学の経営学部に所属していたユ・ジェチョンと申します。一学期という約4ヶ月間の留学生活はあっという間に過ぎてしまいましたが、私にとって一生忘れられない貴重な思い出になりました。

日本に来たばかりの頃は、新しい環境や生活にうまく適応できるか少し心配もありました。でも、留学生サポーターズ（JIST）の皆さんや国際課の方々がいつも優しく声をかけてくださり、色んなイベントも準備してくださったおかげで、すぐに大学生活に慣れることができました。特に記憶に残っているのは川越散策です。JISTのメンバーや他の留学生たちと一気に親しくなることができました。もともと日本の伝統的な建物や地域文化に関心があったので、川越の歴史ある街並みに直接触れられてすごく嬉しかったです。また、JISTのイベントでやった「人狼ゲーム」も印象的でした。相手を説得したり自分は市民だと主張したりするために、頭の中で一生懸命日本語を組み立てて話さなければならず、普段の会話以上にとっても良い日本語の実践練習になりました。



<写真1：城西大学 入学式にて>



<写真2：通学で毎日利用した川角駅>

学業面では、日本語の授業はもちろん、経営学部で会計やマーケティング論、経営学などの専門科目を学びました。専門用語が全部日本語で出てくるので最初は少し難しく、授業の後に自分で復習が必要でしたが、その分理解できた時の達成感がありました。特に面白かったのは「リーダーシップ開発」という授業です。スーパーマーケットの「ベルク（Belc）」さんと連携し、20代～40代向けの新魚商品を企画するグループワークをやりました。ターゲットを決めてプレゼンまで全力で取り組み、自分たちのチームが1位になれた時は本当に嬉しかったです。実際の企業と連携した企画を体験できて、大きな自信になりました。また、放課後に友人と一緒にラーメンを食べに行ったり、日本の美味しい食文化を楽しんだことも素晴らしい思い出です。



<写真3：日本の伝統カフェで味わった抹茶と和菓子>



<写真4：放課後に友人と食べた本場のラーメン>

正直、1年以上留学したいと思うくらい楽しかったので、半年で終わってしまうのが本当に勿体なくて悔しいくらいでした。しかし、生きた日本語を学び、実践的な経験ができた今回の留学に後悔は一切ありません。いつも温かくサポートしてくださったJISTの皆さん、国際課の皆様、そして一緒に過ごした友人に心から感謝いたします。城西大学で得た大事な経験を胸に、韓国に戻っても自分の夢に向かって頑張ります！